

## 第5回 議事録 熊本豪雨「リボーン」 コロナ禍での災害

講師：溝口隼平さん

熊本県八代市 2010年に移住

リバーガイド

ダム撤去の研究(水文学全般・水害・洪水被害・ダム決壊事故についての知識)

アウトドアガイド業として

林業参入

令和2年7月4日 豪雨発生 過去最大規模が最短時間で・・・

嵩上げをして十分な広さのある一次避難所も沈む

実際に家も沈んだ

自分の家も沈む前提で2階で生活

### 【初動】1日目～1週間

ヘリで逃げ遅れがないか調査 ラフティングの知識を活かす

被災居住の庭先に拠点を作る

コロナ禍で人海戦術が難しいので、重機でできるところまでやることを覚悟・実施

最大4機の重機でどろかき

4拠点に水がもらえるところを設置

コロナ対策として、遠方から来る人のためにテントスペースを設置

【コロナ禍】人が動けない！！親戚もボランティアも支援団体もこれない！

-行政・社協は県内しか受け入れられない-

- ・ 入り込んだ支援団体
- ・ 感染対策
- ・ 現地で作る

行政・社協で受け入れられない人を受け入れる

長期滞在の県外団体が地元の高校生の指導役にもなったりした

チームで外部の団体を受け入れる

団体単位でコロナの足取りを追える形にしていた→友人団体・企業団体

企業団体は社員研修という形でやったりしていた

どの地域も人手が足りなかった！！人海戦術ができないから最適解を見つけていくことが必要（効率化など）

### 【難しかった案件】

- ・所有者不明の空き家→解体申請は誰が？？今なら災害解体できるかも・・・
- ・区長さんが工夫して所有者の関係者に口頭で確認

### 【取り残されることをそうするか？】

- ・重機免許を取った人の練習台として使用
- ・オペレーションできる人を増やすねらい

### 【事前にしておくべきだったこと】災害後に気づいたこと

- ・空き家バンクのシステムをアップデートすべき
- 災害利用の項目を追加する
- ・被災家屋解体方法の事前登録制
- 被災したときに悩まなくて済むように
- ・空き家対策は防災に直結できる
  - ・解体資材を再利用する仕組み・復興資材にする仕組み→ゴミではなくストックする
  - ・被災したらどうするのか考えておく

### 【コロナ禍によるトイレ問題・感染症対策】

- ・各集落にトイレスポットを設置する
- ・地域住民の方と接触しないトイレを作る・使用を分ける

### 【コロナによって合意形成の場が減る】

- ・説明会の頻度が減る、会議ができない、意見が言えない、、不満が大きくなる
- 復興計画の遅れに直結する
- ・オンラインも難しい→パソコンも流されている人も、、

### 【提案事項】

防災フェーズフリー化

### 【質疑応答】

Q. 外部から受け入れをしていたと思うが、課題点は??

A. 外部から受け入れているのはバレバレ。。社協のテリトリーとは別のところで作業する・トイレ分ける・泊まる場所を用意するなど分ける作業を徹底。検査して来る団体もあり、口頭で確認。行政も黙認しないと進まない現状があり、孫請け会社は県外だったりした。何かあった場合には追跡できるようにした。

Q. 外部から人が来ることについて地域の人々の反応は？

A. 直接文句を言われたことはない。溝口さんだからまあOK的な人がいた（ある意味諦め。。）。重機に乗っていたのでディスタンスはとれている。地域の方は暖だった。溝口さんが外部からの移住者でいつも変なことしてたからということもあるかも。。

杉田英治さんも熊本地震の際に同じようなことを経験。外部からの移住者がいることで関係人口が増え、助けてくれる人も増える。土から認められた風が重要な役割を果たすのでは??

Q. 溝口さんの構想を行政と話したり、実現に向けた動きはあるか?

A. 話す機会・会議等あれば発言するようにしている。地域おこし協力隊の立ち上げに関して意見をしたりしているが、まだ却下されている状況。影響力の大きい人と共にやっていく必要があるのでは??

Q. 島中さん—自分の生活に手一杯でなかなか復興の和に入っていけない自分がある

A. 楽しいところを探そう！エンターテイメントとしてやれる場所はあるのでね。クラファンするだけでも変わる

Q. ダムを建設し、流量を少なくする方向性だが地域の意見は?

A. きちんと検証してほしい。ダムのために川幅を狭くした背景があるので広げたらどうなるか検証すべき。地域住民の合意を得ずに進めるのはいけない。ダムがあるから安心・ダムがないと安心にならない地域も出てきている

Q. 文化をゴミにしない仕組みづくりに具体的な構想は?

A. 文化をゴミにしない仕事を作る。コロナ・災害で失業した人などに技術をもった人が共に仕事にする。そして好きになってもらう。3年～5年は安定した仕事を作り、その間にビジネスを考える

Q. どういう人員体制でやってるの??

A. もともと会社は少人数だった1人→5人だった（3人被災者）みんな山の仕事していたため、重機運転ができ、リーダーシップをとれる人

生活を守るため、資金援助を求めることを最初からやった（広報活動）

事務的なサポートをJICA難民（コロナで海外に行けなかったひと）に有償で依頼

山の仕事はたくさんあったのでそこで給料を年捻出

※林業参入のためスタッフを増やした

Q. 熊川のラフティングは?沈んだ残骸は?

A. 26社あり、上流は安全確認を密に行いぼちぼち再開している。下流は復興が遅れているためゴミ拾いツアー以外はやっていない。まだ危険なので慎重にやっている

Q. 重機の手配はどうしたの??

A. ラフティングは夏しかなく、冬の土木作業をしていた時代の繋がりです。借りているものが一台。無料で貸していただいているものが2台。あとは普通にリース。

コロナ渦でどう動くのか??を考える